

あくとみ まち や い せき  
芥見町屋遺跡現地見学会

令和6年11月30日（土） 13:30～ 主催：岐阜県文化財保護センター



平成28年国土地理院発行の2万5千分1電子地形図「岐阜北部」を使用

●調査の成果

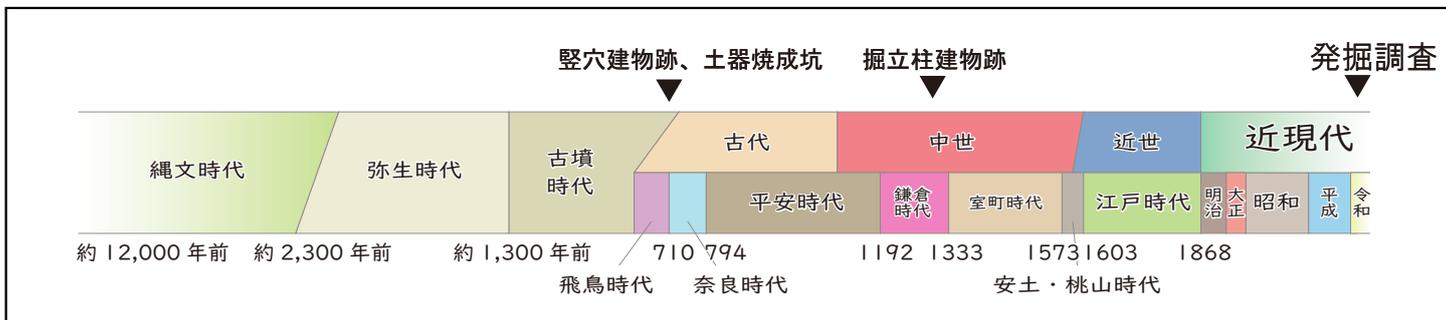
芥見町屋遺跡は、岐阜市の北東部、長良川と武儀川、津保川が合流するやや下流左岸に形成された自然堤防上から後背湿地にかけて広がる遺跡です。これまでの発掘調査では、遺跡の南東部で弥生時代から近世の集落跡や近世の郡上街道跡などが見つかっています。

今回の岐阜県が行う公共道路メンテナンス事業に伴う発掘調査は、遺跡の南西部A地点・B地点・C地点の3箇所の発掘区で行っています。A地点では中世の屋敷地がみつかり、屋敷地を区画する溝や掘立柱建物跡のほか、地鎮祭などの祭祀を行った痕跡などを確認しました。長良川堤防に近いB地点とC地点では、7世紀後半の竪穴建物跡や土器焼成坑、8世紀前半の竪穴建物跡など古代を中心とする遺構を確認しました。出土遺物の中には、土で馬をかたどった土馬や「美濃」と刻印された須恵器が出土しました。

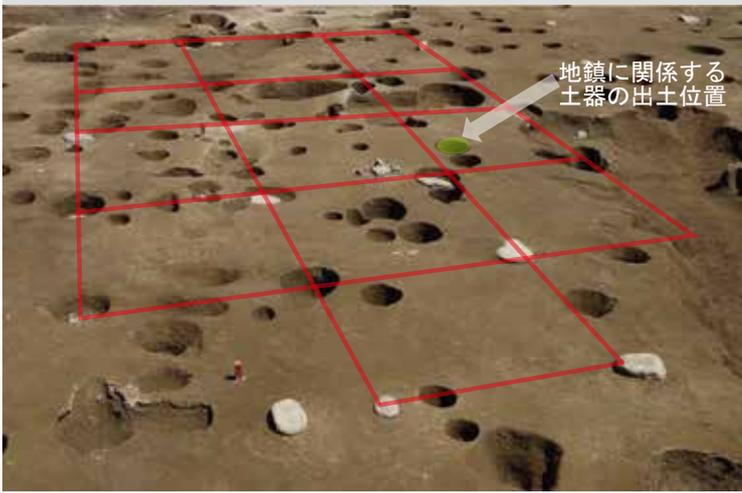
●調査データ

所在地：岐阜市祇園1丁目  
 調査面積：2,440.2㎡  
 事業者：岐阜県岐阜土木事務所  
 事業名：公共道路メンテナンス事業  
 （主）川島三輪線藍川橋工区  
 調査期間：令和6年5月7日～  
 令和6年12月上旬

芥見町屋遺跡と年表 ※遺構は主なもの



## A 地点



### ぼんじ ぼくしよどき 梵字を書いた墨書土器と掘立柱建物跡

A地点の西部で見つかった、掘立柱建物跡です。柱穴は、穴の中に扁平な石を置いたもの、礎石のように扁平な石を用いたもの、石などを伴わないものが混在しています。また、建物の範囲内から、地鎮に関係すると思われる12個の小石が入った山茶碗が出土し、蓋のようにかぶせられた山茶碗の内面には梵字などの文字が記されていました。

## B 地点



### 竪穴建物跡

B地点南部で見つかった、古代の竪穴建物跡です。カマドには、袖石や支柱石が残っていました。また、貯蔵穴と考えられる土坑からは、カマドに使用する甕が出土しました。



A地点で出土した墨書土器

横から



前から



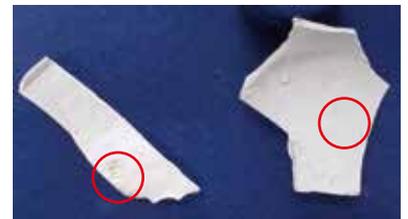
B地点で出土した土馬

## C 地点



### 土器焼成坑

C地点で見つかった、土器を焼くための土坑です。出土遺物から、ここでは土師器の甕や甑が焼かれていたと考えられます。古代にはこのあたり一帯で土師器が生産されていたと考えられます。



みのこくいんすえき  
B地点で出土した美濃刻印須恵器



○印の箇所を拡大した写真

## 宇野隆夫帝塚山大学客員教授による調査成果に関するコメント

A地点では中世の掘立柱建物や屋敷地を区画するような溝が見つかった。この他、非常に多くの土師器皿が出土したこと、また銅製の飾り釘の存在などから、一定規模の屋敷地を構え、多くの儀礼や祭祀を執り行うことができる有力者が存在していたと考えられる。B・C地点では、掘立柱建物跡と考えられる方形の柱穴や美濃刻印須恵器、水の祭祀に使用される土馬などの出土遺物からみて、周辺に古代の物流を司る拠点があったと考えたい。当該地は川湊や近世の街道が所在するなど古くから交通の要衝であり、その遺跡群の重要な一環が今回の調査によって明らかになったものである。今後の詳細な分析・検討が期待される。